

教育に関する事務の点検及び評価報告書

(令和3年度分)

令和4年8月

南部町教育委員会

【目次】

第1 点検・評価制度の概要	1
1. 事務の点検・評価の考え方	1
2. 具体的な事務の点検・評価の方法	1
3. 事務の分類と評価	1
第2 事務事業ごとの点検・評価	2
I. 教育委員会の活動	
1. 教育委員の構成	2
2. 教育委員会の活動状況	
(1) 委員会議の開催状況	2
(2) その他の活動状況	3
II 教育委員会が管理執行する事務	3
III 各課の事務の点検及び評価の結果	4～27
1. 学校教育環境の充実（学校教育課）	
(1) 学校教育施設・環境の整備	4～8
(2) 学校教育内容の充実	8～10
(3) 教育支援センター事業の実施	10～13
2. 生涯学習の充実（生涯学習課）	14～16
3. 文化の振興（生涯学習課）	17～18
4. 総合会館・公民館・文化ホール事業（生涯学習課）	19～20
5. アルカディア文化館（アルカディア課）	
(1) 南部図書館・富沢図書館	21
(2) 町立美術館	21～22
6. 生涯スポーツの充実（アルカディア課・生涯学習課）	
(1) 施設の充実と効果的な活用	23～24
(2) スポーツグループの育成とスポーツの生活化	24～26
(3) 組織の充実と連携	26～27

第1 点検・評価制度の概要

1. 事務の点検・評価の考え方

南部町教育委員会では、学校教育、生涯学習、文化、スポーツ・レクリエーションなどの分野で様々な施策に取り組んでいますが、これらの施策を充実させる上で各施策の進捗状況や町民の皆様及び関係各位の意見を踏まえることは非常に重要なことです。また政策効果を把握し、必要性、効率性等の観点から自ら評価を行い、その結果を公表することは、住民に対する説明責任を果たす上で重要なことです。

このようなことから「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、自らの権限に属する事務の管理及び執行について、点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、町民に公表する取り組みを平成 20 年度から実施しています。

【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務「前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。」の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 事務の点検・評価の方法

令和 3 年度に南部町教育委員会並びに教育委員会各課において執行された事務事業について、教育委員会内部で点検評価する。

3. 事務の分類と評価

教育委員会所掌の事務事業を次のとおり 3 分類する。

- I 「教育委員会の活動」
- II 「教育委員会が管理執行する事務」
- III 「教育委員会各課の執行する事務事業」

◇ 達成度の評価

「III 教育委員会各課の執行する事務事業」について、達成度を 5 段階で評価する。

- 5 極めて満足である (順調に達成している)
- 4 満足である (概ね順調に達成している)
- 3 普通 (達成見込みだが若干課題がある)
- 2 不満足である (順調でない)
- 1 極めて不満足である (達成しなかった)
- 評価しがたいもの

第2 事務事業ごとの点検・評価

I 教育委員会の活動

1. 教育委員の構成

南部町教育委員（2021年5月1日～2022年3月31日）

職 名	氏 名	任 期	備 考
教 育 長	入 月 一 巳	2021年4月1日 ～2024年3月31日	教育長就任 2021年4月1日
教 育 長 職務代理者	佐 野 保 仁	2018年5月10日 ～2022年5月9日	教育長職務代理者就任 2021年5月1日
委 員	山 本 純 司	2020年5月1日 ～2024年4月30日	
〃	望 月 正 宏	2021年4月1日 ～2023年5月9日	
〃	望 月 聡 美	2021年5月1日 ～2025年4月30日	

2. 教育委員会の活動状況

(1) 委員会議の開催状況

南部町教育委員会の会議は原則として公開する。また毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催する。

この会議において、5名の教育委員（教育長1名を含む。）が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則等の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けている。

令和3年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

会 議	開催日	議案	協議・報告	その他
令和3年 定例会 第4回	4月7日	2	2	1
臨時会 第1回	4月28日	1	1	3
定例会 第5回	5月13日	1	1	1
〃 第6回	6月22日	0	2	2
〃 第7回	7月21日	3	3	3
〃 第8回	8月31日	2	0	3
〃 第9回	9月30日	1	1	4
〃 第10回	10月21日	0	2	3
〃 第11回	11月22日	1	2	2
〃 第12回	12月20日	1	2	3
令和4年 〃 第1回	1月20日	3	2	3
〃 第2回	2月15日	2	3	3
〃 第3回	3月10日	2	1	3
合 計		19件	22件	34件

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議への出席以外に、各会議、関係行事等へ出席している。
なお、平成27年度より地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、南部町総合教育会議が設置され、令和3年度は3回の会議が開催された。その他主な活動は次のとおりである。

- ・山梨県町村教育長会 ・山梨県教育委員会連合会
- ・峡南地区教育委員会連合会 ・峡南地域教育推進連絡協議会
- ・各小中学校入学式 ・卒業式
- ・各小学校運動会 ・中学校学園祭
- ・学校訪問 ・管理主事訪問 ・教育を語る会要望書提出
- ・成人式典
- ・その他各種イベント事業への出席（コロナ禍により中止）

Ⅱ 教育委員会が管理執行する事務

教育委員会が管理執行する事務は南部町教育委員会事務委任規則に規定されている。
令和3年度に管理執行した事務については下記のとおりである。

(1) 教育委員会規則及びその他の重要な規定の制定及び廃案すること。

規則の制定・改正・廃止

- 南部町アルカディア南部総合公園管理運営規則の一部改正
- 南部町アルカディア南部総合公園文化館規則の一部改正
- 南部町教育委員会事務局組織規則の一部改正

要綱・規程の制定・改正・廃止

- 南部町学校その他の教育機関の長に対する事務委任規程の一部改正
- 南部町教育支援センター設置要綱の全部改正
- 南部町アルカディアスポーツフェスタ実行委員会補助金交付要綱の一部改正
- 南部町図書館フェスティバル実行委員会補助金交付要綱の廃止

(2) 教育予算その他の議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること。

条例の制定・改正・廃止

- 南部町総合センター条例の制定
- 南部町アルカディア南部総合公園条例の一部改正
- 南部町公民館条例の一部改正
- 南部町総合会館条例の廃止

予算

- 令和3年度6月補正予算、令和3年度9月補正予算、令和3年度12月補正予算
- 令和3年度3月補正予算、令和4年度当初予算

(3) 教育委員会の所管する各種委員会の委員の任命及び委嘱に関すること。

- 学校運営協議会 委員31名
- 社会教育委員協議会並びに公民館運営審議会 委員13名
- スポーツ推進審議会 委員5名
- 美術館運営審議会 委員6名
- 文化財保護審議会 委員5名

Ⅲ 各課の事務の点検及び評価の結果

1. 学校教育環境の充実（学校教育課）

（1）学校教育施設・環境の整備

① 学校施設環境整備事業

* 事業概要

- ・小中学校に学校図書の整備を行った。

* 成 果 [評価 4]

[小中学校施設の学校図書の整備]

- ・睦合小学校 834,931円（図書337冊 CD11枚 DVD6枚）
- ・栄小学校 679,000円（図書376冊 CD1枚 DVD18枚）
- ・富沢小学校 778,884円（図書375冊 CD7枚 DVD12枚）
- ・南部中学校 876,371円（図書420冊 CD0枚 DVD4枚）

* 課 題

学校図書の購入については、限られた予算の中で計画的に進める必要がある。

② 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業（スクールガードリーダー）

* 事業概要

子どもたちが安心して教育を受けられるよう、家庭や地域の関係機関・団体と連携しながら、学校の安全管理に関する取り組みを実施することを目的とする。

本町では、平成17年より1名のスクールガードリーダーを委嘱し、小学校3校に対して登下校の際の子どもへの指導、見守り隊への指導、通学路の安全確認等を実施している。スクールガードリーダーは、主として学校周辺を登校時間帯及び下校時間帯にそれぞれ2時間程度、3小学校を曜日交替りで巡回している。

- ・スクールガードリーダー報償費 142,350円

* 成 果 [評価 4]

事業を開始してからは特に問題等は起きておらず、交通事故防止、犯罪抑止など事業効果は大きい。また地域や保護者、スクールサポーターと連携し登下校における安全確保の取り組みが進んでいる。

* 課 題

今後も子どもたちの安全確保のため事業を継続していくが、小学校の見守り地域が広範囲に及ぶため各校の見守りボランティアと連携するとともに、通学路付近の住民に「ながらパトロール」の依頼をするなど、全町的に効率的な見守りを行うことに努める。

③ 日本スポーツ振興センター災害給付金事業

* 事業概要

各小中学校に在学する児童・生徒の不慮の災害に備えて、独立行政法人日本スポーツ振興センターと災害共済給付契約を結び、学校の管理下において児童生徒が災害に遭った場合、その治療費や見舞金の給付を保護者に対して行う制度。町では全校児童生徒がこの制度に加入しており、その共済掛金は町が負担している。

- ・ 共済掛金合計額 350,625円（対象：小学校240人、中学校135人）
- ・ 実績（給付金合計）288,996円（対象：小学校4件、中学校23件）

* 成 果 [評価 5]

町では医療費助成制度により、18歳まで無料化されているが、この災害給付金制度では療養に伴って要する費用として加算される分（1/10）があり保護者にとっては有利である。学校でもその点を説明し、この制度の利用に努めている。

* 課 題

各学校では児童生徒や保護者にスムーズな手続きが取れるよう説明や周知を行っているが、事務処理の関係により年間を通してみると給付までに時間を取ってしまうケースがいくつかあるため、より迅速な対応に努めていく。

④ スクールバス・タクシー運行事業

* 事業概要

南部中学校において、富河・万沢・井出・十島地区の生徒を対象にスクールバスを運行する。小学校については、居住地が遠く離れている井出・十島・万沢地区の児童及び通学路（国道）が危険な楮根地区児童も、スクールバスで送迎している。また陵草地区の児童については、タクシーで送迎をしている。

- ・ 総事業費 22,666,217円
(内 訳)
- ・ 運行委託料
 - スクールバス 16,890,500円
 - タクシー 1,498,390円
- ・ 修繕料 2,302,468円
- ・ 燃料費 1,974,859円

* 成 果 [評価 4]

児童生徒の通学にかかる負担を軽減する。

- 1) 南部中学校の生徒の輸送
 - ・ 富河地区 29名、万沢地区 15名、井出・十島地区 5名
- 2) 富沢小学校の児童の輸送
 - ・ 万沢地区 33名（内陵草地区2名）、楮根地区 4名
- 3) 栄小学校の児童の輸送
 - ・ 井出地区 6名、十島地区 3名

* 課 題

スクールバス乗車時間の最長は徳間地区生徒で約25分間である。遠距離生徒が安全かつスムーズに登下校できるよう運行時間、運行ルート、乗降場所等の調整を図る。また、スクールバス利用による児童生徒の心身疲労の軽減、運動不足の解消に努める。

⑤ 学校給食共同調理場運営事業

* 事業概要

平成25年4月に2つの調理場を統合し、南部町学校給食共同調理場をスタートさせ、調理の集中化による効率化を図るとともに衛生面の充実に努めている。

学校給食は、安心して安全な、そして、衛生面にも十分配慮した美味しい給食を提供

することにより、子どもに望ましい食習慣を身につけさせることを目的にしている。

なお、令和２年度から児童生徒の学校給食費を無償化とし、保護者が負担する給食費を免除することにより、保護者の経済的負担の軽減を図り、町民の子育てを支援することとした。

また、令和３年度は、耐用年数を経過し老朽化が著しい大型調理備品（食器・食缶洗浄機、ティルティングパン、真空冷却）の更新をした。

1) 学校給食の運営費

歳出決算額

70,428,549円（内、賄材料費26,665,341円）

2) 学校給食の提供

年間提供日数 小学校：198日、 中学校：198日

1日当たり 小学校：286食、 中学校：151食

* 成果〔評価 5〕

令和２年度から児童生徒の学校給食費を無償化とし、保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、町民の子育て支援に取り組んだ。

食材については地産地消を取り入れ、町内ＪＡの協力のもと季節感や風習に因んだ郷土料理や旬の野菜等を献立に加え、献立内容の充実を図っている。

また、農林水産省の国産農林水産物販路多様化緊急対策事業による山梨県産温泉ワインうなぎや鹿児島県産養殖カンパチ切身、愛媛県産養殖真鯛切身等の無償提供を受けた。

* 課題

毎回、約400食以上を調理、配送することになるので適切な人員を配置するとともに、調理場では仕込み、調理、配送に至るまでスムーズな作業ができるよう効率的な体制づくりを図る。また、より豊かな学校給食の実現と一層の効果的な給食運営を図るためのひとつの手法として、給食調理業務の民間委託についても検討する必要がある。また、地産地消の推進をしているが、品質管理の点で難しい面もある。

なお、食材の高騰による給食の質や量の低下を生じさせないように献立等を工夫し、食材価格の動向には気を配る必要がある。

⑥ 要保護及び準要保護児童生徒への就学援助事業

* 事業概要

経済的理由等により就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、学校で必要な費用(学用品費、修学旅行費等)を、認定基準額（所得の金額）に応じて認定審査を行った上、支給する。

区 分	受給者	援助額
睦合小(準要保護)	10人	247,904円
栄小(〃)	1人	11,900円
富沢小(〃)	10人	195,352円
南部中(〃)	10人	305,908円
計	31人	761,064円

◇準要保護者：児童扶養手当受給者

(26世帯31人)

◇要保護者：生活保護で対応

(0世帯0人)

*** 成 果 [評価 4]**

対象者に対しては、民生主任児童委員等と連携し申請漏れのないように手続きの勧奨を行っている。ひとり親家庭に対する経済的支援の効果は大きい。

*** 課 題**

前年比受給世帯は増加、援助額は146千円の減少となった。援助を必要とする児童生徒（母子、父子家庭）は変わらず多くいる。

⑦ 心の教室相談事業

*** 事業概要**

心の教室相談員を中学校に配置し、適切な教育相談や基本的な生活習慣等の指導を行い、生徒の悩みや不安、ストレスを解消する。

*** 成 果 [評価 4]**

より身近なところに相談できる場があり、生徒達の悩み、不安、ストレスが和らぎ、心にゆとりを持てるようになることは、生徒が充実した学校生活を送ることに繋がっている。また、相談員は学校や関係機関との連携役を担っている。

*** 課 題**

相談員は、生徒が抱える諸問題について、担任、養護教諭、関係機関、教育委員会との連携が求められる。

⑧ 学校運営協議会事業

*** 事業概要**

平成28年度に南部中学校、令和2年度からは町内全ての小学校でも学校運営協議会をスタートさせた。学校運営協議会は、保護者及び地域住民の学校運営への参画や連携を図ることを目的とし、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組む。

*** 成 果 [評価 5]**

町内全ての学校で、学校運営協議会を設置し2年目となり協議会を通して、地域の声を教育活動に反映させることができた。学校と地域との相互理解を図る上で、協議会は効果的な機能を果たしている。また学校教育活動等に地域の力を活かす体制として、学校支援ボランティアの募集活動、連絡調整を教育支援センター内の地域学校協働本部で行っている。

*** 課 題**

各協議会の代表者等を集めた全体会議等を開催し、情報交換等を通じて、各学校の課題や取り組み内容、運営について協議する。

運営協議会を開催するための資料作りに、教職員が時間を掛けなくても済むように工夫をする。

⑨ 小学校適正配置事業

*** 事業概要**

富沢小学校が開校し1年が経過した令和3年6月に、富沢小学校児童と保護者に対して、統合についてのアンケート調査を実施した。調査結果については、概ね前向き

な意見が得られ、8月の広報誌に掲載し、住民へ周知した。令和8年度には、南部地区の睦合小学校と栄小学校の統合が予定されており、今後は調査結果等を分析、参考として、集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することで思考力や表現力、判断力、問題解決能力を身に付け、さらに自ら課題を発見し主体的に学び合う協働的な学習が可能となる、より良い教育環境を整えるべく、計画年度内での適正配置を目指す。

* 成 果 [評価 5]

富沢小学校児童、保護者から得られた統合についてのアンケート結果では、児童の数が増えたことについては、両者とも概ね良かったという前向きな意見だった。ただし、統合の時期と、コロナ禍も重なり、平常時の学校生活ではない面もあり、今後も検証が必要と思われる。また少数ではあるが、統合したことに対する不安や心配の声も聞かれ、今後の学校運営を図る上で、改善課題としていかねばならない。さらに、これらの成果を、次期南部地区小学校の適正配置計画に反映させ、より良い計画を作成していく必要がある。

* 課 題

富沢小学校が開校し1年が経過し、児童は新しい学校生活に慣れつつあるも、新型コロナウイルス感染症の予防対策は、引続き警戒状況が続き、なかなか平常の学校生活に戻れないストレスを抱えている。また少数ではあるが、統合後の学校に不安を抱えている児童もあり、学校及び委員会のより一層の目配りが必要である。またこの後予定されている南部地区の適正配置計画では、通学区域も含め、富沢地区とはまた違う課題も含んでおり、協議、検討していく必要がある。

⑩ GIGA スクール構想事業

* 事業概要

GIGA スクール構想とは、児童生徒向け1人1台端末と、高速大容量の情報通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させる計画。令和2年度に各学校内の情報通信ネットワーク整備、児童生徒1人1台端末の整備を行った。令和3年度にはユーザーのアカウント管理が容易にできる、ユーザー管理システムを導入した。

* 成 果 [評価 4]

GIGA スクールユーザー管理システム使用料（5年間分）
・ 4校分 638,000円

* 課 題

教職員の ICT 活用指導力向上のため研修等を行い積極的に支援していく。また基本的に ICT 端末は学校において使用するが、今後は家庭へ持ち帰り、学習することもあるため、児童生徒へのルールや活用方法について再確認が必要となる。

（2）学校教育内容の充実

① 町費単独負担教員及び非常勤講師設置事業

* 事業概要

小規模小学校における教務主任の配置（学級担任外）及び中学校におけるきめ細かな教育や教員の免許外教科の解消のため、町費単独負担教員及び非常勤講師を配置し適正な教育指導を行う。

*** 成 果 [評価 5]**

学級編制において県基準による教員配置数を町費単独負担教員で補い、適正な教育指導と円滑な学校運営を図ることができた。

町単教員数：小学校 1 名、中学校 2 名

非常勤講師：中学校 3 名

事業費：11,666,085 円

*** 課 題**

中学校教員は担当教科も関係するため、人材確保が課題となる。また、小学校においては、少人数学級のデメリットを解消する学級運営を行う必要がある。

② 小中学校特別支援教育支援員配置事業

*** 事業概要**

小・中学校において特別支援学級入級相当ではないが、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、学校生活を送るために支援員（非常勤職員）を配置し、必要な支援を行う。

*** 成 果 [評価 5]**

学級担任と支援員との連携により、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、状況に応じた適切な支援を行うことができた。また、学級担任の負担を軽減することができ、学級全体への指導の充実、円滑な学級運営を図ることができた。

*** 課 題**

専門的な知識・技能を持つ支援員の人材確保が望まれる。また、今後さらに支援を必要とする児童生徒が増加すると予想され、その対応策が必要となる。

③ 小中学校外国語指導助手設置事業

*** 事業概要**

語学指導を行う外国語指導助手（ALT）として、中学校に 1 名、小学校に 1 名を配置する形で委託契約を結び、英語を指導している。また、県英語専科教員 1 名が町内各小学校を巡回指導している。

*** 成 果 [評価 3]**

生きた英語に数多く触れることで、英語学習への意欲・関心が向上し、英語を聞く・話すといった基礎的なコミュニケーション能力を高めることにつながる。

また、異文化についての意識が高まることにより、国際理解教育が推進される。

令和 3 年度は小・中の ALT が共に更新の時期にあたったが、小学校 ALT は、コロナ感染症予防措置により海外から入国ができず、小学校への配置は 2 学期からを余儀なくされた。全国的な問題で、仕方のないことだが、1 学期は ALT 不在で授業を行った。

*** 課 題**

助手の派遣は派遣会社との委託契約のため、同一人物との派遣契約は最長でも3年間である。また、委託外の校外活動等への参加には別途契約が必要になる。

④ 山梨青森南部町児童交流会実施事業

*** 事業概要**

南部氏の縁に結ばれた、両県南部町児童が、互いの町の歴史や文化、身近な環境などふるさとの特色や学校等を紹介しあい、新しい時代の主役となる子どもたちの交流を深めるため毎年夏休み期間を活用し実施している。

*** 成 果 [評価 -]**

令和3年度は青森県南部町で交流会を開催する予定だったが、コロナ禍のため中止とした。

*** 課 題**

令和3年度も青森県南部町を訪問する予定であったが、令和2年度に引続き、コロナ禍のため中止としている。交流会に2年間の空白期間が生じることになり、交流会の目的、意義を継続して理解していくことが心配される。コロナ感染症が収束し、再び青森県南部町を訪問する際には、児童一人一人がその目的意識を持って参加する取り組みが求められる。

(3) 教育支援センター事業の実施

① 適応指導教室事業

*** 事業概要**

登校に不安を抱える児童生徒に対し、教員OB等のスタッフが学習の支援などを行い、自立に向けて活動する「チャレンジ教室」を南部町総合会館1階に開所している（平成26年度開設）。チャレンジ教室の開所時間は、基本的には月曜日から金曜日までの午前中である。

*** 成 果 [評価 4]**

参加者は5名で、教室では数学、英語、国語、社会、理科を中心に取り組み、本人の意向に応じた学習支援を行った。また、保護者から不登校に関する教育相談業務を行い、家庭・学校と密接に連携支援する中で、自立に向けた支援を行った。

通室生徒	通室日数	通室期間
2年男子A	5 1 日	令和3年 6 月～令和4年 3 月
2年男子B	8 日	令和4年 2 月～3 月
2年女子C	2 3 日	令和3年1 1 月～令和4年 3 月
2年女子D	2 5 日	令和4年 1 月～3 月
3年女子E	6 3 日	令和3年1 1 月～令和4年 3 月

*** 課 題**

不登校児童生徒の早期対応に努めるとともに、不登校の背景は集団への不適応、学力不振、友達や教師との人間関係等様々な原因によるものなので、学校、スクールソーシャルワーカー、家庭、教委等関係者が情報を共有し、個々の状況に合った最善の対応を検討する必要がある。また、チャレンジ教室から学校への復帰に努める。

② 教職員の指導力向上研修事業

*** 事業概要**

夏季休業期間中に町内小中学校の教職員を対象に授業力向上のための研修会を実施している。

*** 成 果 [評価 4]**

令和3年度は、教職員のICT活用指導力の向上として、文部科学省のICT活用教育アドバイザー事務局より講師を派遣していただき、Chromebookの基本的な操作方法と、授業での活用に向けた研修会を実施した。町内小中学校の教職員が同じ研修を受けることにより、ICTを活用した授業を推進していくための共通な土台作りができた。

*** 課 題**

学校のICT活用が急速に進んでいるため、教職員の端末操作方法是もちろんのこと、端末使用に関するマナーやモラル、ルールなどを児童生徒に指導をしていく必要がある。

③ 学力向上対策事業

*** 事業概要**

学習意欲の高揚と学力向上を図るため、小学4年生～中学3年生を対象に自学自習の場「なんぶ未来塾」を開所している。講師は教員OB等が務め、毎月2回、土曜日に開催。

*** 成 果 [評価 4]**

参加者は小学生20名、中学生10名、開校日数は小学生26回（延べ161人）、中学生26回（延べ63人）。

*** 課 題**

開校時間、登校手段に配慮する必要がある。また学校と連携し効果的な運営を図る。

④ 特色ある南部町教育事業

*** 事業概要**

特色ある南部町教育として、かつて蒙軒学舎で行われた英語教育に本町の特色を見出し、生きた英語教育を目的に外国人講師とともに過ごす「イングリッシュキャンプ」を夏季休業期間中に開催している。

*** 成 果 [評価 -]**

イングリッシュキャンプは、毎年小学校5、6年生を対象に静岡県立朝霧野外活動センターで開催しているが、令和3年度はコロナ禍のため中止とした。

*** 課 題**

英語の楽しさをキャンプを通じて理解させるねらいがあるが、コロナ禍では3密の回避は難しい。

⑤ N授業

*** 事業概要**

多くの児童がともに学習し、多様な考えに触れるなど学びを共有し、広める機会として3年生から5年生を対象に年1回ずつN授業（町内小学校3校の合同授業）を実施している。

*** 成 果 [評価 ー]**

今年度はコロナ禍のため予定を変更し、5年生のN授業「ふるさと学習」のみを行った。今回の内容はふるさとカルタを使用した学習会とカルタ大会を実施した。3校の児童が一つの授業に参加することで交流も深まり楽しみながら学ぶことができた。

*** 課 題**

教材研究、資料づくりなど教師の負担感は否めない。また、事前打合せ等の日程調整が難しい。

⑥ ICT 教育支援事業

*** 事業概要**

平成29年7月にタブレットPCを小中学校に導入した。「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善をねらいとして、ICTを学習活動に利用するため、教育支援センターにICT支援員を配置した。GIGAスクール構想が始まり、4校を巡回して教員の操作技術補助、教材作成、授業支援等を積極的に行っている。

*** 成 果 [評価 4]**

ICT機器を活用した授業の機器操作補助や、教職員へのPC操作指導などの支援を行い、ICT教育による授業改善が進んだ。

*** 課 題**

GIGAスクール構想が始まり、令和2年度に1人1台の端末が整備され、情報化社会の成長に拍車がかかった。技術的な捉えから情報技術を活用する力が求められるため、時代に対応できる子供たちを育成できるよう、授業内容の一層の充実に向け支援する。

⑦ 小学校英語教科支援事業

*** 事業概要**

新学習指導要領により、英語が小学校5,6年生では「教科」に、3,4年生は「外国語活動」へと完全移行されたため、令和2年度は、小学校の英語科授業における支援、指導等について専門の指導員を配置し巡回指導を行った。この指導方法を生かし、令和3年度は、専科教員、ALT、担任による英語指導を実施した。

*** 成 果 [評価 5]**

教師の英語授業に対する悩みや不安の解消、指導力の向上については一定の成果があった。しかし、完全に解消された訳ではなく、今後も研究、検討が必要である。

*** 課 題**

現在、県費による英語専科が配置されているが、配置計画が恒久的なものであるかは示されていないため、ALT の配置計画と併せた支援体制の検討が必要となる。
なお、さらに教職員の英語力向上も必要である。

⑧ 小学校社会科副読本編集事業

*** 事業概要**

小学校での社会科学習における教科書は、全国的、一般的な記述内容となり、自分たちの住んでいる町や近隣の町、県等に関する学習する資料が十分に得られない状況にある。本町では昭和42年に初版本を作成して以来、3・4年生を対象としての社会科副読本を作成し活用している。

*** 成 果 [評価 4]**

本年は、新学習指導要領の改訂を踏まえ、地域における社会的事象を学習する具体的な地域学習資料として、使いやすくわかりやすい社会科副読本を作成することができた。

社会科副読本印刷製本費：2, 733, 445円

*** 課 題**

社会科副読本は5年ごとに改訂を行っている。今年度は教科書と同じ大きさ（AB版）で作成し、単元構成カラー印刷、ドローンによる空撮、動画でイメージがわかるQRコードや郷土資料（落穂拾遺）などを活用し作成した。教師が授業を進めやすく、子どもたちが親しみをもち、学習意欲をもてるように工夫することが重要となる。

2. 生涯学習の充実（生涯学習課）

① 生涯学習の推進

* 事業概要

各種講座・教室・事業を通じて、町民が学習する機会を提供する。

* 成果〔評価 4〕

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、アルカディアフェスタ、成人式等年間予定事業のうち、成人式のみ開催した。

【アルカディアフェスタ2021】

令和3年9月にアルカディア南部総合公園において、「きたえよう心と体 広げよう笑顔の輪」というテーマで、あらゆるライフステージの町民が一同に集う機会を提供する予定であったが、中止となった。

【南部学】

生涯学習セミナーとして、主に働き世代～退職後の成人向けに、南部町内に残る歴史・文化に焦点を当てた学習会「南部学」を数年後に開催するための準備を行った。

【成人式】

令和4年1月8日(土)に文化ホールにおいて、成人者69名（男性38名、女性31名）を祝福する式典を開催した。

県内・近隣市町村でも挙行か中止か判断が分かれるなか、前日にはコロナウイルス抗原検査キットを全員に配布し、結果を提示しての入場など安心して参加できる環境づくりに努め、町を挙げて万全の体制で臨み、新成人同士の再会の場、地域への愛着と成人としての自覚を導く機会の提供ができた。

* 課題

各種講座・教室・事業は、幅広い年齢層を対象とするなかで、コロナ禍でも行える方法を考え、感染症対策を十分行ったうえでの実施に努める。

仮に事業実施できない場合においても、各個人が日常生活のなかに文化・芸術・郷土愛が常態化するよう啓発活動に努めるなど、年間を通じて継続的に事業を発信していくことが重要である。

また、成人式の内容については、一生に一度しかない晴れ舞台の日を提供することを基本に、限られたスタッフや新生活様式のなかで、よりスムーズに運営できるよう検討していく。民法改正に伴う成人式の名称についても、他市町村の動向を注視しながら、どうあるべきか検討していく。

② 青少年教育の推進

* 事業概要

青少年の人間形成において家庭の果たす役割は大きく、特に核家族化が進みつつある現在、個としての家庭ではその役割の発揮に限界がある。

町としても、少年期から青年期にかけ、社会参加活動への機会を提供するための青少年教育を推進する。

一方、一昔前と比べ、青少年を取り巻く環境も大きく変化し、依然青少年を巻き込んだ犯罪やインターネット・SNSを介した事件等は続出している。この背景にはコロ

ナ禍における休日などの過ごし方など環境の変化もあるが、地域における地縁的繋がり希薄化などによる地域の教育力の低下も考えられる。

このため、地域の皆で支えあって青少年の教育や社会問題の解決に取り組まなければならない。町はこれらの活動を支援し、また、相談指導体制の充実を図る。

*** 成 果 [評価 4]**

子どもクラブ連合育成会では、例年体力向上等の目的にアルカディアフェスタにおいて行っているイベントが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催できなかった。2月3日(木)～2月6日(日)の新春書道展では、334点の作品を展示し、192名の来場があった。

町民会議では、夏季生活指導会議や冬季生活指導会議を新型コロナウイルス感染拡大の影響により書面開催とし、青少年を支えあうことの必要性や、長期休暇期間において地域のあるべき姿について情報共有した。

夏季休暇の時期を利用した「家庭の日」作品募集事業は、予定どおりポスター・標語・作文それぞれのジャンルにおいて募集した。入賞作品27点については、新春書道展の場において披露した。

*** 課 題**

家庭教育に関しては、学校教育課や子育て支援課とのすみわけが難しく、例えば相談業務は、その内容によって教育的なことが主であれば学校教育課(教育支援センター)窓口、ファミリーサポートであれば福祉保健課、子育て支援課が窓口となっており、本課の役割としては低い。引き続き、関係課同士の連携を中心に情報共有に努める必要がある。

また、町を挙げて取り組むべきあいさつ運動などは、地域・学校・家庭共通の課題であるため、それぞれの連携体制の構築に努める必要があるが、その手法に関して書面でのやりとり中心の場合、考え方や想いがダイレクトに伝わらず、地域の熱意が冷めてしまう懸念もある。今後の感染状況にもよるが、重要度や必要性を判断しながら、地域の在り方についての話し合いの場を持つことを基本に事業を実施していく必要がある。

③ 高齢者教育の推進

*** 事業概要**

高齢化社会においては、高齢者が経済社会の変化に対応していくために絶えず新たな知識や技術を習得する機会が必要とされる。また、学習を通じての豊かさや生きがいの充足が求められることから、積極的な社会参加を果たすことができるような学習と活動の機会と場を提供し、高齢者教育の振興を図る。

*** 成 果 [評価 3]**

学習機会提供の場として「なんぶいきいき大学」と称し、5月から2月まで年間10回、歌や身体を動かしながら楽しく健康長寿の道を歩めるようなメニューを提供する予定であったが、結果的に全て中止となった。

これは、対象者が高齢者ということもあり、コロナ禍において多くの方を参集しての開催は慎重に行う必要があったことや、ワクチン接種の時期と重なったことから、参加者の安全面も考慮した結果、やむを得ない判断であった。

*** 課 題**

高齢者の社会参加が少なくなっている今日、高齢者世代の趣味も日々変わってきている。ニーズの多様化などもあるが、多くの参加者に興味を持ってもらえるテーマ設定や足を運んでもらうための工夫を行い、新規参加者の増加を目標にしていかなければならない。また、実施にあたっては、高齢者の学習機会が競合しないよう他団体と調整し、場合によっては共催も考慮する必要がある。

今後とも、新型コロナウイルスの感染状況を見極め、参加者の安全面を最優先しながら実施に努める。

3. 文化の振興（生涯学習課）

① 文化財保護事業

* 事業概要

文化財は地域の歴史や文化の成り立ちを理解するうえで、欠くことのできない資産である。現在、国指定1件、県指定18件、町指定48件の指定を受けており、文化財審議会委員を中心に史跡や天然記念物の保護、無形文化財の継承に努める。

また、これら文化財について、情報発信や学習機会の提供など、活用することによって郷土の良さや再発見に努める。

* 成 果 [評価 4]

県・町の補助を活用し、国指定文化財1件の火災予防、県指定天然記念物2件の説明看板更新を行い、適切な保存に努めた。埋蔵文化財に関しては、受理2件伝達2件合計4件処理を行い、2件の試掘調査を行った。これらの取り組みにより、各種文化財の保存・継承に努めることができた。

また、ふるさとカルタ原画展開催にあわせ、ふるさとカルタを活用した「南部歴史講座」を行った。

さらに、歴史資料室において、「落穂拾遺」を読み下し、製本化した。

* 課 題

町には文化財専門の知識を有する職員がいないため、県の専門機関、文化財保護審議会委員及び所有者等との協力体制を強化し、文化財の保護に努める必要がある。

文化財の活用という点に関しては実施不足の面も多いため、南部氏・近藤喜則の両史料館等を手始めに情報発信しながら、生涯学習の場での活用を探求していく。あわせて、案内看板作成やマップの更新、デジタル化などは、予算化を検討していく必要がある。

生涯学習の分野におけるふるさと教育推進にあたっては、町の文化財の保存・活用と密接な関係があるため、引き続き「ふるさとカルタ」を活用した事業を研究していく、併せて「南部学」などに関連付けた事業展開も検討していきたい。

② 文化協会等育成事業

* 事業概要

平成30年度から、新南部町文化協会として活動を開始している。“創りだそう ぐらしの中に 輝きを”をキャッチフレーズに、町民の文化活動への支援、芸術文化へ触れる機会の提供、文化祭の開催を通し、文化振興への貢献を図っていく。

* 成 果 [評価 3]

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、文化祭をはじめ年間を通じてすべての事業を中止せざるを得なかった。

年度末には、ミニ展示会を開催し、幼稚園・保育所の子どもたちの作品、家庭の日優秀作品及び子どもクラブ連合育成会の新春書道展の合同展示会を行い、192名の来場があった。

社会教育施設の新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドラインの中で、少人数で活動を行っている団体もある一方、合唱など自粛せざるを得ない団体が大半であった。

* 課 題

先人たちの努力により南部町文化協会を中心とした町民の自主的な文化活動が浸透しているが、所属員の高齢化は進んでいる。また、コロナ収束後の活動再開期に向けて、各個人がより豊かな人生を送るため、様々な文化芸術や交流活動を推進していく必要がある。今後とも関係者との情報の共有化や連携をはかり、町民の文化芸術活動が衰退しない工夫が必要である。あわせて、本町の自然や人情に惹かれ都会から移住してきた芸術家との交流を深め、新たな文化の創造の可能性を探っていく。

4.総合会館・公民館・文化ホール事業（生涯学習課）

① 各種教室、講座等の主催事業

* 事業概要

中央公民館では、身近で多様な学習機会の提供を目的に、町民を対象とした公民館講座や各種教室を開催している。

【連続講座】

教室名	時期・実施回数	受講者数
羊毛フェルト教室	月 2 回 (6 回)	5 人
陶芸教室	月 1 回 (6 回)	7 人
パン作り教室 (A クラス・B クラス)	各クラス 月 1 回 (A6 回・B5 回 11 回)	25 人 (A : 13 人・B : 12 人)
ガーデニング教室	月 1 回 (5 回)	12 人
パッチワーク教室	月 2 回 (6 回)	4 人

【単発講座】

教室名	実施日	受講者数
おやこ料理教室	12 月 11 日	8 人

* 成 果 [評価 4]

公民館講座は、「地域住民の生きがいがいづくりの入口」という生涯学習の一つの役割を確立する過程にある。一部の受講者は、講座をきっかけにサークルに参加したり、趣味として継続する動きが見られる。

本年度は新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、コロナ前に比べて募集定員を減らし、検温・消毒・マスクの着用等の対策を取り開講した。

全ての受講者が前述の感染症対策に協力的であったこともあり、最後まで受講生の中から体調不良者は出なかった。

規模は縮小したが、全ての行事が自粛傾向にあったコロナ禍においても、安心して学習できる機会を設けることができた。

* 課 題

受講者が以前から受講しているリピーターが多く、新規受講者の開拓が課題である。

また、アンケート結果からは、受講者からの満足度の高さが伺えるものの、固定化されたメンバーによる娯楽に留まっている感は否めない。公民館本来の役割である「学びを通じた仲間との交流」や「地域に内在する課題への気づき」に繋がられているとは言えず、これら目的を果たすまでの道のりは遠い。

このため、講座という「学びの場」の提供に加えて、講座で学んだことを活かす具体的なビジョンを提示することで、「地域住民の交流」「地域リーダーの育成」に繋がるような、主体的な学習活動を支援していく必要がある。

② 南部町文化ホール事業

* 事業概要

芸術文化に関する住民の意識の啓発、教養の向上を目的とし、映画会、寄席、合唱などの自主事業を実施する。実施にあたっては、文化ホール運営委員会を開催する。

また、地域社会の振興に寄与するため、南部町民文化祭芸能発表会、内船歌舞伎の

定期公演等へ協力し、その他ホールの貸館等を行う。

【自主事業】

事業名	開催日	入場数	販売収入額
なんぶシネマ1【中止】	8月	一人	0円
なんぶシネマ2【中止】	3月	一人	0円
なんぶ演芸【中止】	6月	一人	0円
計		一人	0円

※前年度自主事業販売収入額 756,600円

【有料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
【なし】			0円
計		0人	0円

【無料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
民生委員会（会議）	4月16日ほか	101人	無料
さちかぜ号による交通安全教室	7月15日	100人	無料
南部町成人式	1月8日	160人	無料
南部町消防団出初式	1月9日	100人	無料
各種会議 ほか8回使用	4月14日ほか	597人	無料
計	全34回	1058人	—

* 成果【評価 3】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全ての自主事業が開催できず、ホールを拠点とした文化芸術の素晴らしさを町民に伝える機会の提供ができなかった。

一方、事業が開催できず評価が難しいなかでも文化ホール運営委員会を開催し、委員同士の情報共有や、どうあるべきかといった議論が行えた。

貸館事業については、施設ガイドラインを策定し、定員制限や感染症対策を徹底しながら開館に努めたが、利用実績は昨年度に比べて大幅に減少した。

* 課題

自主事業については、新生活様式に則しながらできるだけ集客の見込めるコンテンツの提供が何よりも求められるため、演目・日程ともに文化ホール運営委員の意見を取り入れつつ、企画立案していくことが肝要である。

貸館については、発表会・練習など、本来の文化芸術に関する利用でなく、他施設を利用できないために、収容人数の多い当ホールで「会議」として利用するケースが増えている。このため、舞台・照明・音響等に関する操作方法マニュアルの周知や、ボランティアスタッフの育成も検討していく必要がある。

経年による施設の更新も課題である。稼働率と管理のバランスを取りながら、より良い利用形態を模索し、地域の文化振興に貢献していきたい。

5. アルカディア文化館（アルカディア課）

① 南部図書館・富沢図書館

* 事業概要

地域の情報拠点、学習の拠点となる図書館は、町民の学習要求の多様化、高度化に伴い、一般書はもとより専門書、学術書、地域資料、さらには公共図書館と学校図書館を結ぶネットワークの活用を図り、学習にあった多種多様な資料の収集及び提供を目的とする。

【南部図書館】

○開館日数： 274日

○来館者数： 7,352人

○貸し出し冊数： 39,261冊

○主催教室事業

事業名	開催数	参加者数
乳幼児・幼児・リトミック教室	24回	328人
お話し会・読書指導（小学生以下対象）	4回	83人
講座・教室・その他	3回	52人

【富沢図書館】

○開館日数： 212日

○来館者数： 1,878人

○貸し出し冊数： 9,647冊

* 成果〔評価 3〕

コロナ禍においても、町民の継続した読書活動を推進するため、徹底した感染症対策を講じ、安心して図書館の利用が出来るよう努めた。また、富沢図書館の老朽化と中学校の統廃合に伴う校舎の有効活用から、旧富河中学校を改修し総合センターとなる施設に富沢図書館を移転した。図書の移動や新しい施設の管理、総合センターとしての運用について更なる町民の文化向上に努める。

教室イベント等は町内での感染があり、一時的に事業を見送る期間があったが、開催出来る状況を考慮しながら、継続して開催することができた。

* 課題

利用者のニーズにあった図書を提供するため、リクエスト等の情報の収集に努めるとともに、住民の読書支持率向上のための方策を検討していく。また、蔵書情報のWEB公開やオンラインによる予約システム等の新しい生活様式に則した図書館機能を検討し、住民にとってより利用しやすい図書館運営に努める。

② 町立美術館

* 事業概要

町民が歴史と文化に興味を持ち、芸術向上の場として親しみやすい美術館運営を考慮し、郷土が誇る芸術家「近藤浩一路」の功績を称え、その作品を美術館に展示する。

水墨画美術館として幅広く認知され、町内芸術家の情報発信、交流の場となるような事業を展開する。

○開館日数：273日

○企画展

・ 峡南の桜写真展	3月20日～ 4月18日	251人
・ 映水展「祈り」・森田陽咲「私」	5月 1日～ 5月30日	632人
・ 富士山写真展「うつろひ」	9月14日～10月 3日	521人
・ 第2回 渡辺修孝 絵画展	10月26日～11月 7日	1,059人
・ 近藤正寛 写真展	11月13日～12月 5日	662人
・ 南部ふるさとカルタ原画展	12月19日～ 1月30日	435人
・ 早蕨作品展	3月 6日～ 3月27日	210人

○常設展

・ 近藤浩一路作品 (通年開催、年4回展示替え)	864人
--------------------------	------

* 成 果 [評価 4]

感染症対策の継続に対し、体温チェックや入場時のチェックシートの記入、手指の消毒等が浸透している。感染状況等を考慮しながらの運営となったが、美術館としては比較的感染症リスクが少なく、継続的な開催が出来た。

また、継続して開催していることで多くの方に芸術に触れ合う機会の提供ができ、入場者数等における実績が前年度を上回ることができた。

* 課 題

有名な作家ほど町民より町外者の方が多く来館する傾向がある。より多くの町民の芸術に対する興味や関心を高めるための企画を増やす必要がある。

また、町外者に対しては、WEBやSNSの活用による情報発信を強化し、さらなる来場者数の増加を図る。

6. 生涯スポーツの充実（アルカディア課・生涯学習課）

(1) 施設の充実と効果的な活用（アルカディア課）

① アルカディアスポーツセンター

○営業日数：288人

○入館者数：20,522人

	利用者数	収入金額
内訳 プール・ジム	11,089人	(1,658,600円)
レッスン	7,361人	(4,098,000円)
体育館	2,072人	(145,540円)
		<u>5,902,140円</u>

○その他の施設：22,761人

	利用者数	収入金額
内訳 テニスコート	509人	(162,290円)
野球場	5,181人	(528,320円)
運動場	1,379人	(11,940円)
富沢野球場	2,098人	(53,500円)
小中学校施設	13,205人	(394,670円)
柔剣道場	389人	(18,860円)
		<u>1,169,580円</u>

○主要教室事業

	申込者数	事業収入
☆親子体操教室	20組	55,000円
☆シニアトレーニング	99人	333,000円
☆シニアフィットネス	22人	71,000円
☆子供体操教室（年少・年中・年長・小1）	62人	163,000円
☆大人初級・上級水泳教室	12人	36,000円
☆ズンバ	37人	189,000円
☆ズンバゴールド	14人	63,000円
☆アクアズンバ	5人	30,000円
☆全身シェイプ&体幹強化(初級・上級)	48人	240,000円
☆美筋トレーニング	15人	97,500円
☆Let's Jump	15人	97,500円
☆やさしいエアロ(昼)	9人	40,500円
☆やさしいエアロ(夜)	22人	108,000円
☆筋トレ&かんたんエアロ	15人	97,500円
☆マットサイエンス	30人	138,500円
☆カラダ整えエクササイズ	17人	75,000円
☆ステップ45	22人	117,000円
☆ボディーメイクトレーニング	22人	114,500円
☆朝ヨガ	27人	117,000円
☆シニアヨガ	20人	80,500円
☆シニアヨガアクティブ	11人	43,000円
☆はじめてアロマヨガ	33人	163,500円
☆リラックスアロマヨガ	23人	112,500円
☆シェイプ&体幹トレーニング	15人	83,000円

☆小学生水泳教室	132人	885,000円
☆年中・年長水泳教室	48人	307,500円
☆体操教室（生涯スポーツ係）	30人	120,000円
☆トランポリン教室（生涯スポーツ係）	30人	120,000円

合計 20組 835人 4,098,000円

*** 成 果 [評価 4]**

令和3年度についても、新型コロナウイルス感染症対策として、すべての教室事業参加者を町内者に限定し、募集人数も大幅に削減し、実施した。利用者数、収入ともに前年度を上回り、徐々に以前の賑わいが戻りつつある。

今後も感染症対策等を実施しながら、引き続き安心安全な教室事業の運営を心掛けたい。

*** 課 題**

新型コロナウイルスの感染状況及びワクチンの接種状況などを勘案し、いつの段階で通常の運営に戻していくか、見極めが大変重要となる。今後とも、関係各位でしっかり協議し、最善の運営をしていきたい。

②その他施設

*** 事業概要**

社会体育施設・学校体育施設の開放は、各スポーツ協会支部、スポーツ協会専門部、クラブチームの多数に利用されている。

*** 成 果 [評価 3]**

社会体育施設については、ガイドラインに基づき、利用（町外者利用可）を再開している。アルカディア南部総合公園スポーツセンター内施設（プール、トレーニング室、レッスン室、体育館）については、屋内施設であることから、いまだ利用者を町内者に制限している。今後の感染状況、ワクチン接種状況等を勘案し、関係各位と協議をおこなったうえ、しかるべきタイミングで制限を解除していきたい。

*** 課 題**

アルカディア南部総合公園（スポーツセンター、テニスコート、野球場、運動場）及び社会体育施設は、管理面積が広く、職員数も減少していることから、業者などを効率的に活用し、レベルの高い施設を目指していきたい。また、昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、安心安全な施設運営をおこなってきたい。

(2) スポーツグループの育成とスポーツの生活化（生涯学習課）

① スポーツ推進委員事業

*** 事業概要**

目 的：町民にスポーツの楽しさ、すばらしさを伝えるとともに、スポーツやレクリエーションの普及振興を図るための指導・助言を行う。

事業費：70千円（スポーツ推進委員会補助金）

事 業：1) 軽スポーツ普及事業

トランポリン教室（9回）、体操教室（8回）、スポーツ鬼ごっこ教室（中止）

2) 各種スポーツ大会への協力

アルカディアフェスタ2021（中止）、第19回駅伝・マラソン大会（中止）

3) 各種研修

定例会（2回）、峡南研修（中止）、県研修（2回）

*** 成 果 [評価 3]**

スポーツ推進委員20名は、スポーツの普及振興に努めている。中でもトランポリン・体操教室については、コロナ禍で回数が減ってしまったが、感染症対策をしっかりと行った上で、指導有資格者を中心に指導ができ、参加者から好評を得た。

町内のイベント等については新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として全て中止となり、令和3年度も令和2年度に続き、例年と同様な活動は出来なかった。

県のスポーツ大会、研究大会については実施され町スポーツ推進委員も参加した。

*** 課 題**

令和4年度はイベント等においてコロナ禍でも行えるやり方を考えるなど、感染症対策を行った上での実施に努める。万が一、新型コロナウイルス感染症の感染状況が急激に悪化した場合は迅速に対応する。また、新しい生活様式でも実施できる活動を考え、積極的に取り組み、スポーツ活動の推進を図る。

② スポーツグループ育成事業

*** 事業概要**

目 的：町民のスポーツ実施率の向上とスポーツの日常化を目指し、軽スポーツグループの育成を図る。

事 業：「南部リズム会」は平成18年度から自主団体として活動し、毎月1回リズム体操教室を開催している。会員は年度末現在48名。

*** 成 果 [評価 5]**

南部リズム会は設立から15年が経ち町民の中に定着している。50代から70代までの女性層が中心で生活習慣病予防、体力づくりのほか会員の憩いの場として役割を果たしている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で延期は余儀なくされたが、年間で予定している12回全てを開催することができた。

*** 課 題**

リズム体操をするだけでなく、南部警察署と協力しての交通安全・防犯活動等の多種多様の活動も活発となっている。なお一層の啓発や事業の推進を図り、スポーツを積極的にしない町民の取り込みを図る。また、会員自身が更に主体的に活動し、運営していく体制を整えていく。

③ スポーツ教室・イベントの開催

*** 事業概要**

目 的：スポーツを振興し、町民の体力増進・健康を保持するとともに、人と人とのふれあいを育むコミュニティの場として、誰でも楽しめる軽スポーツを中心に教室を開催する。

事業費：教室謝金455千円、サンクスデー35千円

事業

1) 各種教室の開催

教室名	開催日	開催回数	参加者数
スポーツ鬼ごっこ教室	中止	-	-人
ウォーキング教室	中止	-	-人
トランポリン・体操教室	4月～2月	9・8回	延べ431人
スキー教室 しらかば2 in 1	中止	-	-人
リズム会	4月～3月	12回	延べ390人

2) スポーツイベント

イベント名	開催日	参加人数
チャレンジデー 2021	中止	-人
ヴァンフォーレ甲府 サンクスデー	5月9日	2人
アルカディアフェスタ 2021	中止	-人

* 成果 [評価 3]

コロナ禍で開催回数は例年より減ったが、日頃からスポーツの体験ができない方に対してのきっかけづくりとして大きな効果があり、各教室とも多くの初心者参加があった。一方、イベント関係はほとんどが中止となり、唯一実施された「ヴァンフォーレ甲府 サンクスデー」も、規模縮小で開催されたため、例年ほどの参加人数とはならなかった。

* 課題

種目を固定化するのではなく、町民のニーズにあったスポーツやニュースポーツイベント教室を開催する。イベントも新しい生活様式での開催が出来るよう内容を一新し、感染症対策を行った上での実施に努める。

(3) 組織の充実と連携

①スポーツ協会（令和2年度よりスポーツ協会に改称）

* 事業概要

目的：生涯スポーツを推進するにはスポーツ協会と町行政とが緊密な連携を図る必要がある。

事業：スポーツ協会は25支部、15専門部、6スポーツ少年団から組織され、教育委員会生涯学習課生涯スポーツ係が、庶務会計を担当しスポーツ振興を図っている。競技スポーツとしての一面と生涯スポーツの一面を有し、県体育祭への出場、駅伝・マラソン大会の開催、各種スポーツ教室の開催を年間事業としている。特に初心者を対象にしたスポーツ教室では各種目の普及を目指している。行政とも緊密な連携と協力体制が図られている。

事業費： 2,045千円（スポーツ協会補助金）

事業名	開催日	参加人数
体育功労者・特別表彰式	個別対応	91 人
第 19 回南部町駅伝マラソン大会	中止	-人

*** 成 果 [評価 3]**

町とスポーツ協会の連携が図られスポーツ事業が実施されている。令和元年度から町民体育祭の開催は見送られ、駅伝・マラソン大会が町の一大行事として位置づけられるが、令和3年度も駅伝・マラソン大会が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、アルカディアフェスタで行っていた体育功労者及び特別表彰も個別で訪問しての対応となった。

*** 課 題**

町民体育祭の開催が見送られ、町民が一堂に会して運動をする機会が減ってしまったため、アルカディアフェスタの内容を変え、多くの町民に参加してもらい、町民体育祭に代わるイベントとなるよう努める。

部員の減少等により活動機会が減少している専門部においては、新規部員の取り込みのために体験教室を開催し、部員の確保をしていく。

イベントや教室開催にあっては、感染症対策をしっかりと行い、開催していく。